



ユーザ事例
IT サービス企業

Link & Linkage

リンク&リンクージ株式会社

リンク&リンクージが「カバヤ・オハヨー基幹システム」のインフラを刷新しました。「オンライン/バッチ処理の高速化」と「データ分析の高度化」を同時に実現するために、システム全体の処理能力を大幅に強化。ハイブリッドクラウド化に向けた準備も整えました。

24時間365日無停止で運用する基幹システムと
データマイニング基盤の統合を
NetApp オールフラッシュアレイが実現

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループのIT領域を担うリンク&リンクージが、「カバヤ・オハヨー基幹システム」のインフラを刷新しました。NetApp AFF オールフラッシュアレイを採用し、バッチ処理時間を1/4に短縮するなど大幅な高速化を実現。BIツールによる業務データ分析をより高度化し、データマイニングの実行基盤としても利用していく計画です。同社ではデータ保護・BCP対策の強化に向けて、NetApp AFF とパブリッククラウドサービスの連携の検討にも着手しました。

バッチ処理時間を

1/4に

重複排除率

40%を達成

cabaya

ホンモノは、おいしい。
OHAYO

お問い合わせ

NetApp®

“システム全体のパフォーマンス向上、という目標は十分に達成されました。さらに重要なのは、カバヤ・オハヨーグループの中長期戦略としてのブランド価値向上に本システムが寄与できることです。今後は、食品メーカーとして独自の『単品管理』にチャレンジし、お客様ニーズをいち早く捉え、ニーズを先取りする新商品の開発へとつなげていく考えです”

リンク&リンクエージ株式会社 IT事業部 システム開発部 次長 兼 システム開発課 課長
難波 毅 氏

チャレンジ

24時間止まらない業務を支える 基幹システムの仮想化基盤を最新化

リンク&リンクエージは、日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループにおけるシステム開発、物流、受注機能を統合する戦略的企業として2017年7月に設立されました。グループの中核企業であるカバヤ食品、オハヨー乳業のサプライチェーンの根幹を24時間体制で支えるミッションを担います。同社 IT 事業部 システム開発部 次長の難波毅氏は次のように説明します。

「私たちIT事業部が構築・運用を手がける『カバヤ・オハヨー基幹システム』は、販売/財務/請求/購買/在庫の管理から原材料調達までを担う、24時間無停止で運用される最重要の環境です。メインフレームで運用してきたシステムを2013年に全面刷新し、Windowsベースのアプリケーションで再構築しました。インフラには仮想化テクノロジーを採用して、基幹システムだけでなくデータ分析系システム、グループウェアなどを統合しています」

「カバヤ・オハヨー基幹システム」を支える仮想化基盤は、パフォーマンスに十分な余力をもって構築されたといいます。しかし、ビジネスをとりまく環境の変化がシステム負荷を急速に高めていました。

「2016年3月に日本カバヤ・オハヨーホールディングスが設立され、グループは持ち株会社体制に移行しました。経営の意思決定の迅速化を掲げ、戦略的なデータ活用が全社で推し進められる中、仮想化基盤のストレージ環境のパフォーマンス不足が徐々に顕在化していました」(難波氏)

最も深刻だったのは実績データ集計の時間の伸長でした。カバヤ食品、オハヨー乳業では工場を24時間体制で稼働させており、バッチ処理の遅延が受注から生産に至る業務サイクルを停滞させるリスクを高めていたのです。

「2017年4月、2時間を使っていたバッチ処理時間を半減させることを目標に、次期仮想化基盤の検討に着手しました。そしてもうひとつ、戦略的なデータ活用をいっそう強化し、BIツールによるデータ分析にとどまらず、需要予測や生産量の最適化まで踏み込んだデータマイニングの実用化を目標に掲げました」と難波氏は話します。

難波氏を中心とする仮想化基盤刷新プロジェクトは、「ストレージI/Oのボトルネックを解消し、システム全体のパフォーマンスを大幅に引き上げる」という基本方針を掲げました。慎重な検討を経てリンク&リンクエージが採用したのは、最新のオールフラッシュアレイNetApp AFF A200です。



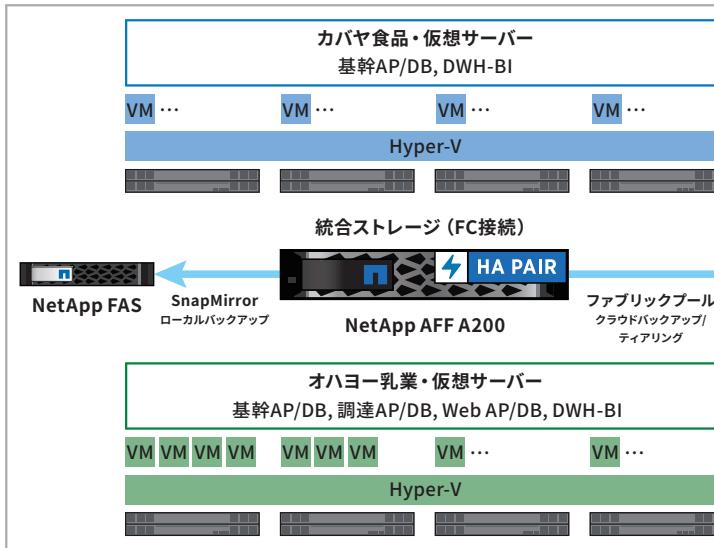
リンク&リンクエージ株式会社
IT事業部 システム開発部 次長 兼
システム開発課 課長
難波 毅 氏

ソリューション

フラッシュ/ディスク/クラウドの 全域に有効なNetApp ONTAP 9の データ管理機能

リンク&リンクエージが採用したNetApp AFFは、業界をリードするパフォーマンスと、NetApp ONTAP 9のデータ管理機能が高く評価されているオールフラッシュアレイ製品です。カバヤ食品とオハヨー乳業の基幹業務を支える統合ストレージとして導入されたNetApp AFF A200は、2Uのコンパクトな筐体で2コントローラーをActive - Activeで稼働させ、高いパフォーマンスと優れた耐障害性を実現しています。同社がNetApp AFFに着目した視点はユニークでした。

「NetApp AFFが搭載するOS『ONTAP』の機能の豊富さに、まず注目しました。中でも、複数のワークロードが混在する環境で高いパフォーマンスを維持できる最適化機能、標準で利用できるシステム監視/パフォーマンス計測機能、パブリッククラウドサービスとの連携機能に魅力を感じました」と難波氏は説明します。



リンク&リンクエージ株式会社
IT事業部 システム開発部
システム開発課
杉山 圭太 氏

「NetApp 製品は、ストレージ専業ベンダーとしてハードウェア/ソフトウェアの統合的な設計思想が優れていると直感しました。他のストレージOSの進化のスピードが上がらない中、ONTAP はクラウド連携を中心に目に見えて進化し続けていることがわかります。ONTAP のコミュニティの活動も非常に活発ですね」とIT事業部 システム開発部 システム開発課の杉山圭太氏も話します。

NetApp AFF がオールフラッシュアレイ市場で独自のポジションを獲得している理由のひとつに、「ONTAP データ管理ソフトウェア」の機能拡充のスピードがあります。最新のONTAP 9では、フラッシュ/ディスク/クラウドの全域に、ONTAP ならではのシンプルかつ統合的な使い勝手を提供します。

「NetApp AFF は、パフォーマンスと信頼性における要件に応えられるだけでなく、重複排除・圧縮による優れた容量効率、スケールアウトによる柔軟な拡張、洗練されたクラウド連携/バックアップなど、これから数年間使い続ける中で必要となる機能がすでに整っていました」(杉山氏)

**バック処理時間を1/4に短縮
オンライン処理も体感速度を大きく改善**

次期仮想化基盤の構築は2017年末に開始され、翌年2月から稼働を開始しています。アプリケーションをはじめソフトウェア資産をそのままにインフラを最新化しました。NetApp AFF は、Hyper-V 環境と FC で接続するブロックストレージとして採用されています。

「NetApp AFF オールフラッシュアレイの威力は絶大でした。最大2時間を要していたバッチ処理を30分に短縮し、余裕をもって最新データを全社に提示できるようになりました。当初は2倍の性能目標を掲げていましたが、期待を大きく上回る成果です。データ分析を含むオンライン処理のレスポンスも、体感できるほど改善しています」(杉山氏)

従来のストレージ環境は110本以上のSAS/SATA HDD を利用していましたが、新システムではわずか24本のSSD に置き換えられました。これにより、「故障の原因となるコンポーネントが大幅に削減されて信頼性が向上し、ストレージ機器が占有するスペースは実に1/10以下にまで削減された」(杉山氏)といいます。

「NetApp AFF の重複排除・圧縮機能を利用することで、データ量を40%以上削減できることも大きいですね。現時点では容量にかなりの余裕があります。

将来、他のシステムを統合することになんでも、NetApp AFF ならスケールアウトによる柔軟な拡張が可能ですね」(難波氏)

現在リンク&リンクエージでは、ローカルバックアップ用にNetApp FAS の導入を進めています。ONTAP が提供するレプリケーション機能「SnapMirror」を利用して、NetApp AFF (SSD) から NetApp FAS (NL-SAS) へのバックアップを効率的に行う考えです。

「平成30年7月豪雨では、カバヤ食品とオハヨー乳業の生産設備にも影響を及ぼしました。改めてBCPと災害対策システムの重要性を認識させられました。『Cloud Volumes ONTAP』を利用して、オンプレミスのNetApp AFF とパブリッククラウドを連携させるバックアップを一日も早く実現したいと考えています」(難波氏)

また、難波氏は「ファブリックプールにも注目している」といいます。ファブリックプールは、オブジェクトストレージへのバックアップやティアリング(データ階層管理)を容易に実現する機能。NetApp AFF にホットデータを残したまま、アクセス頻度の低いデータを低成本のクラウドストレージに移すような運用も可能になります。

こうした「ハイブリッド環境におけるデータの最適配置」「置き場所を意識させないシームレスなデータ活用」は、ネットアップが提唱する「データファブリック戦略」が目指している世界です。

ベネフィット

企業ブランド価値向上に寄与する 独自の『単品管理』へのチャレンジ

カバヤ・オハヨーグループでは、グループ全社を挙げて戦略的なデータ活用を推進しています。これを支えていくのも、基幹システムと分析系システムを統合した新しい仮想化基盤です。

「BIツールを利用した過去データの分析だけでなく、今後はデータマイニングによるより精度の高い需要予測、調達と生産の最適化を追求していきます。

（お客様紹介）

NIPPON
KABAYA OHAYO
HOLDINGS
INC.

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社
日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループの持株会社としてグループ経営をリード。「眞の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする」をテーマとし、食・住・教育・レジャー・ITなど生活に密着した商品・サービスを提供している。

これにAI/マシンラーニングを組み合わせ、現在は人手に頼っている発注業務や生産計画の立案を自動化することが目標です。すでにプロトタイプを構築して検証に着手しています」(杉山氏)

生産数量の最適化、販売機会損失や過剰在庫の解消は、食品メーカーにとって永遠のテーマ。NetApp AFFは基幹システムのデータを高速に取り込み、オールフラッシュならではの高パフォーマンスで分析・データマイニングを実行します。難波氏は次のように話して締めくくりました。

「オールフラッシュアレイ導入によるシステム全体のパフォーマンス向上、という目標は十分に達成されました。さらに重要なのは、カバヤ・オハヨーグループの中長期戦略としてのブランド価値



カバヤ食品株式会社

おいしさ、健康・美、たのしさを追求し、ロングセラーの「ジューC」(清涼菓子)をはじめ、「さくさくぱんだ」(チョコレート菓子)や「ピュアラルグミ」、「塩分チャージタブレッツ」など、子供から大人まで楽しめる商品を提供している。

向上に本システムが寄与できることです。今後は、食品メーカーとして独自の『単品管理』にチャレンジし、お客様ニーズをいち早く捉え、ニーズを先取りする新商品の開発へつなげていく考えです。NetAppには、私たちのビジネスを支えるテクノロジーを進化させてもらえることを期待しています」

ソリューションの構成

ネットアップ製品

NetApp ONTAP 9

NetApp AFF A200

オールフラッシュアレイ

NetApp FAS



オハヨー乳業株式会社

ヨーグルト、プリン、飲料、アイス等の乳製品を製造販売。創業以来「おいしさ」にこだわり、どこよりも「おいしさ」を追求。素材の良さを活かす高い技術力と新しいおいしさを生み出す商品開発力で、こだわりのある商品を提供している。

詳細はこちら

<https://www.netapp.com/jp/products/storage-systems/all-flash-array/aff-a-series.aspx>

✉ お問い合わせ

03-6870-7400



ネットアップ株式会社

TEL:03-6870-7600

Email:ng-sales-inquiry@netapp.com

ネットアップは、ハイブリッド クラウドのデータに関するオーナリティです。クラウド環境からオンプレミス環境にわたるアプリケーションとデータの管理を簡易化し、デジタル変革を加速する包括的なハイブリッド クラウド データサービスを提供しています。グローバル企業がデータのポテンシャルを最大限に引き出し、お客様とのコンタクトの強化、イノベーションの促進、業務の最適化を図れるよう、パートナー様とともに取り組んでいます。

詳細については、www.netapp.com/jpをご覧ください。

#DataDriven

© 2018 NetApp, Inc. All rights reserved.

記載事項は、予告なく変更される場合があります。

内容の一部または全部をNetApp, Inc.の許可なく使用・複製することはできません。NetApp, NetAppロゴ、SolidFireは、米国および他の国におけるNetApp, Inc.の登録商標です。その他記載のブランド・製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。CSS-7054-1118-JP